

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4073100473
法人名	株式会社 ウェルフェアネット
事業所名	グループホーム さわやかテラス春日 (ユニット名 1・2階 )
所在地	福岡県 春日市 須玖南1丁目91番地
自己評価作成日	平成29年10月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成29年11月21日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「あるがままに 楽しく ゆったりと」の家訓のもと、入居者・家族の思いに沿った暮らしの実現の為に、お一人お一人の生活に日々寄りそっている。住み慣れた地域で最期まで安心して生活出来るように、地域との交流も大切にしている。具体的には、日々の散歩や毎日の買い物での顔馴染みだけではなく、認知症という病気の理解をして頂ける様な認知症サポーター養成の活動も行っている。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の周辺は、新しいマンションや住宅が多く閑静な環境である。広々とした敷地内に2階建ての2ユニットで、小規模多機能施設も併設しており、落ち着いたたたずまいである。代表者や職員は常に利用者の立場に自身を置き換えてその人らしい暮らしができるように支援している。家訓として「あるがままに 楽しく ゆったりと」、また、事業所の基本理念「住み慣れた地域で安心して健やかに暮らせる」を念頭に、地域社会とのつながりを大切に親交を深めている。法人で発行している「さわやか通信」は、利用者手書きの家訓に、職員による絵画を添えており、多くの方々に愛読されているところである。地域から温かく見守られている事業所としてますますの発展が期待されるグループホームである。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念に「住み慣れた地域」運営方針に「地域に溶け込み」を盛り込んでおり「あるがままに 楽しく ゆったり」との家訓のもと、住みなれた地域で安心して健やかに暮らせる老後をお手伝いしている。また、今年出版した「鍵をかけないケア」はスタッフ全員読んで感想文を提出し、理念やケアの原点を改めて共有している。	地域に馴染んだ1軒の大きな家屋として在り続ける目的から、事業所の大きな看板は掲げていない。「暮らしの中で地域住民に知っていただく」との考えを基に全職員が常に地域を意識しながら利用者とともに日々を過ごしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板や広報誌、地域運営推進会議にて情報を頂き、地区の総会、運動会・夏祭り・敬老会・掃除・どんと焼きなど入居者の方と一緒に積極的に参加している。地域の安全を守るため、小学校区の防犯パトロールに参加している。	自治区会のメンバーとして会議に参加したり、区会の行事には利用者とともに積極的に参加している。安全で暮らしやすい地域づくりを地域の方々と共に考え取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の夏祭りには、地域の方々への参加を呼びかけている。また事業所敷地内は、自由に出入りが出来るように開放し、月に1回カフェを開催し、相談できる場を提供している。責任者がキャラバンメイトとなり、認知症サポーター養成講座を公民館などで行っている。毎月のさわやか通信、年に2回の全体広報誌、HPで情報提供している。徘徊模擬訓練も行政に訴えかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域運営推進会議を2ヶ月に1回開催しており、日々の暮らし・事故・ヒヤリハットの報告をし、互いに意見交換を行うことで「さわやかテラス」の向上を図っている。参加者も警察や病院関係者にも声をかけ、幅広く会議に参加して頂いている。外部評価の結果は地域運営推進会議で報告している。他スタッフにも議事録を閲覧し情報を共有している。	2ヶ月毎に開催しており、利用者、家族、自治会長、地域包括支援センター、市の担当課、社会福祉協議会、民生委員等、多くの参加を得ている。ヒヤリハットの報告では2重服薬の改善を参加者とともに検討し、服薬後の空袋を確認するために「空袋入れ」を準備する等、意見をサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	統括責任者や責任者が市町村担当者のごとくへ伺い、情報交換をしたり、二ヶ月に一回の市町村主催のケアマネ勉強会などに参加している。認知症サポーター養成講座も行政と共同で開催している。	介護保険制度等、制度改正時にはどのように解釈できるか等を役所に出向いて話を聞いたり、事業所の空き状況を知らせたりして、日常的に連携を取って協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	どのような行為が身体拘束につながるのか理解し、拘束をしないケアについていつも念頭に置き、毎日のケアに努めている。安易に向精神薬を投与するなどの薬による抑制も拘束に繋がることがスタッフの心得の中にも入っており、毎月のカンファレンスやチーム会議において唱和し、意識して取り組んでいる。夜間以外は常に玄関を開錠している。	職員は3つのグループにわかれて、研修を行っている。「身体拘束をしないケアの実践」についても責任者や補佐と共に全員で学習しており、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部及び外部研修で学ぶ機会が有り、カンファレンスで伝達研修している。また、常日頃より虐待についてはあってはならないことであり、何事においても入居者の立場に立って支援するよう努めている。また2か月に1回、身体拘束廃止委員会を開いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	責任者やリーダー以上が研修で学び全職員がカンファレンスで話を聞く機会を設けている。また、個々に外部講習を受け、学ぶ機会を推奨している。入居時に必要と思われる方に個別に説明を行っている。	現在、2名の方が成年後見制度を利用している。職員は外部研修や伝達研修等で学ぶ機会がある。外部研修での資料は回覧し、全員がサインし内容の周知をしている。家族には、家族会等で説明しており、パンフレットは事務室には置かれている。	制度について、周知の視点からも、パンフレットの設置場所について、今一度検討する機会を持つことを期待したい。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項契約内容を元に説明を行い、理解・納得を図っている。又、入居後も家族から質問があればスタッフがその都度説明を行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者より意見や不満、苦情があれば、チーム会議やカンファレンス等にて話し合いを行い、それらを反映させるようにしている。またご家族から意見、不満、苦情があった場合は、責任者に報告し、対応を講じ反映できるようにしている。その他、地域運営推進会議等を通して意見等を外部者へ表す機会がある。	家族の訪問時には、意見や要望等を言いやすい雰囲気づくりに心掛けている。家族会では職員が席を外して、家族だけで意見を言いやすい時間を設定している。意見等はチーム会議やカンファレンス時に全職員で検討し運営に反映させている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月一回のカンファレンスで責任者・スタッフ間で話し合いをし、意見交換を行っている。又、責任者との面談で話す機会を設けている。代表は、日常的にスタッフと交流しており、より良いケアを目指す中での意見提案は運営に反映させている。昨年度より時間厳守やリフレッシュ休暇日数を増やすなど働きやすい環境の整備をしている。またスタッフの心得の中にも相互扶助の精神をもつことを掲げており、全職員がコミュニケーション力を高める事に努めている。	代表者や責任者は、日常的に職員とのコミュニケーションを心掛けており、職員は気兼ねなく意見や要望を言っている。職員の要望で利用者の電動ベッドや入浴時の簡易手すりを購入している。また、職員の制服の着替えの購入依頼が実現できた事例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今年度より、組織の見直し、改革を行っている。代表はカンファレンスに参加し、責任者やスタッフ個々の努力や実績についてその場で話している。それぞれの能力やキャリアパス制度に応じ、責任者・補佐・リーダーへの登用があり、向上心を持って働けるようにしている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の採用・募集にあたっては、性別や年齢等(六十歳を定年としているが、その後も働く意欲があれば勤続可能)関係なく、二十代～六十代まで働いている。又、事業所で働く職員に対しては自己研鑽を推奨し、社会参加や自己実現の権利が保証されるよう勤務の調整を行っている。	職員の採用に当たっては、能力や本人のやる気、適性を観て決定している。また、キャリアパス制度や能力に応じた登用もある。職員の休暇は希望休の他、急な休みの調整もできており、働きやすい職場環境である。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	社内研修やカンファレンス、日々の業務を通して代表や責任者より話があり、入居者のペースや意思を尊重したケアの実践に務めている。	職員は、毎月のカンファレンスや社内研修時に利用者に対する尊厳や、人権の尊重について代表者や責任者から学んでいる。利用者一人ひとりの想いに寄り添い傾聴し共感している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修は七事業所合同で行っており、スタッフは段階に応じて知識や技術を学んでいけるようになっている。また、外部講師も招き寄りそい目標シートを導入することで、1人1人の成長を互いに確認しながら進めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の研修などに積極的に参加し、同業者と意見交換する機会がある。また、他グループホームと実践報告勉強会をしたり、市内の同業者と一緒に認知症サポーター養成講座にも取り組んでいる。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居にあたっては直接本人と面談し、話を聴くことを心掛けている。必要であれば何度か面談を行い、不安や心配事など少しでも軽減できるよう話し、希望に沿った入居が行えるようにしている。また事前見学、一日体験、宿泊利用体験も出来るようになっている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に至るまでにご家族と面談し、必要とあれば何度か面談を行い、話を聴くことを心掛けている。不安や心配事など少しでも軽減できるよう、納得した上で入居できるようお話している。その内容はスタッフと共有している。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	自由に見学に来て頂いており、相談を受けた時に本人が今必要としているサービスは何かを見極め、他サービスの紹介もしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できないことを強いるより、入居者の習慣・得意なことを教えて頂くという姿勢で何事にも一緒に取り組むことを大切にしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が来訪された際、コミュニケーションを図ることで情報を共有し、入居者のことを共に考えるようにしている。又、ご家族から要望があればケアプランに反映している。時には、自宅に帰って家族と一緒に過ごして頂いたりする機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで利用されてきた喫茶店やよく行かれていた場所(スーパーやお寺など)に行ったりしている。自宅に帰る事で、近所の方や知人、友人、親類の方と会える機会をつくっている。	利用者の家族の命日には、自宅に行ったり、在宅時の地域の公民館へ囲碁をしに行ったりして馴染みの人との関係を楽しむことがある。近くのスーパーや行きつけの美容院に出かけるための支援もしている。知人や友人の訪問時には歓迎し、お茶等で接待し関係が継続できるように支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフの心得の一つに「さりげない気配り目配り 心配り」を掲げ実践している。併設している「さわやか憩いの家」や1、2階を自由に行き来し、入居者同士の関わりがある。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も家族と関係を保てるようつながりを大事にしている。亡くなられた方のお盆参りや寒中見舞いの挨拶・広報誌を送るなどなど関係を断ち切らないお付き合いを大切にしている。		

### Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「何事も一緒にする」「許可・同意を得る」「本人・家族の希望を重視する」とスタッフの心得にも明記しており、入居者の思いに沿った暮らしの実現に努めている。困難な場合でも、日常の行動や仕草、表情や様子などから思いや意向を考え、本人本位のケアに努めている。	日々のかかわりの中で言葉や表情から意向の把握に努めている。困難な場合には、態度や様子などから気持ちを推し測ったり、また、入居時の情報や家族から情報を得て本人本位に検討している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の前に生活歴、暮らし方、趣味などをご本人やご家族より伺っている。入居後も日常の何気ない会話の中から、情報の収集、把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式のアセスメントシートを活用し、状態を把握できるようにしている。又、入居者の日々の様子を細かく記録し、ご家族に送付している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランチームを三つに分け、それぞれ六名の入居者を担当し毎月話し合いをしている。プランは本人、ご家族の思い願い、スタッフの気づきを反映しており、チーム会議後カンファレンスにて全スタッフで意見交換をしている。ご家族には来訪時にプランの説明をし意見を頂いている。状態の変化に伴い、プランが本人にそぐわない時は再度プランを作成している。	日々のケアの中で利用者の思いを汲みとったり、家族には訪問時や電話で意見を聞いたりしている。チーム会議後カンファレンスにて全職員で検討し、また、訪問診療時に主治医よりアドバイスももらっている。月に一度モニタリングを行い、状況の変化に応じ随時プランを作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は時間ごとに記入し、誰が見てもわかりやすいよう専門用語は避けて表記し、医療的なことは赤色、ケアプランに関しては青色で記入し工夫している。担当者が毎月振り返りをし、ケアの見直しに活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の希望に添って、買い物や美容室等お連れしている。訪問リハビリ、訪問歯科など必要なサービスを相談しながらその時々ニーズに合わせて取り入れている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会や民生委員に協力頂きながら地域の行事へ参加している。(夏祭り、敬老会、運動会、文化祭、餅つき、どんど焼き、ロビーコンサート、認知症カフェ)		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、また入居後も本人及び家族の希望を大切に、かかりつけ医を決めている。かかりつけ医は急変があった場合でも24時間連絡が取れる体制になっている。	本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。家族の殆どが受診に同行出来ないため、他科受診を含め職員が受診の同行支援をしている。受診前後に家族と連絡を取り、情報を共有しながら、適切な医療が受けられるように支援している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間訪問看護ステーションと協力関係にある。併設のさわやか憩いの家の看護師とも情報を共有し、適時状態を見てもらっている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は毎日お見舞いへ行き、話を傾聴することで少しでも不安を取り除けるように努めている。病院関係者からその日の様子や現状を伺い、家族との連絡ノートを活用し、家族・スタッフ間の連絡を密にしている。又、かかりつけ医にも随時状態を報告している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期についての事前の話は、ご本人、家族の状況を見ながら進めている。重度化した場合は、ご家族・代表・責任者・かかりつけ医と繰り返し話し合いをし、ご本人とご家族の希望を十分に理解、把握した上で、かかりつけ医・訪問看護ステーションと連携をとりながら、その方らしい最期を迎えられるよう、さわやかテラスで出来る限りの支援をしている。	利用開始時に看取りのガイドラインについて本人・家族に説明し、同意書を貰い、希望する場合は看取りを行い、場合によっては事業所での葬儀も行っている。本人・家族の意向を踏まえ、医療関係者や職員と連携をとり、安心して最期を迎えられるよう取り組んでいる。家族には部屋や食事の提供が可能である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に消防署の応急手当や救命救急講習などを受講し、講習を受けたスタッフが伝達している。また24時間責任者に連絡が取れるようになっており、初期対応を行っている。事故発生・急変時の対応の本をスタッフルームに置いている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災委員会を中心とし年2回、消防署の協力を得ながら併設事業所と消防訓練を行っている。地域への協力依頼も行っており、自治会・民生委員の方々にも参加して頂いている。又、地区の防災訓練にも参加している。防災委員会で火災・水害・地震ごとに対策とマニュアルを作成している。朝、日勤者がテラス内の消火器の位置などの指差し確認や夜勤者が火災発生時の想定訓練を行い、避難経路確認を行っている。	併設事業所と合同で、年2回昼夜を想定し避難訓練を実施している。また、毎日、日勤者や夜勤者により消化器の位置や避難経路の確認などを行っている。火災以外の対応マニュアルも作成され、食糧や飲料水、おむつなどの備蓄がある。運営推進会議などで避難訓練参加の呼びかけを行っており、近隣住民1名の参加がある。	有事の際、人的支援が必要となってくる。スムーズに避難誘導ができるよう、より多く地域の方と実践をしてみられるよう期待したい。

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	訪問時や外出時など、常に許可・同意を得ている。言葉遣いにも敏感に反応されることを念頭におき対応している。スタッフの心得の中に、言葉遣い・態度についてや、外部へ口外・他言しないように注意を促す記載があり、毎月のカンファレンスとチーム会議で唱和し、スタッフの教育、周知徹底をしている。	利用者を「さん」付けで呼ぶようにしており、職員は言葉遣いや態度などで利用者の誇りやプライバシーを損ねないように配慮している。不適切な場面を見受けた時には、責任者など個別に職員と話しをしている。個人ファイルなどはスタッフルームに保管している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の言動 行動を見守り、思いや希望を話せるように雰囲気を作ったり、本当に言おうとされていることに耳を傾けるよう寄りそう支援をしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の望まれていること、気持ちを大切に、ご本人のペースに合わせて行うように努めている。希望される時は、自宅へ帰ったり、買い物、散歩等自由に行って頂いている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者の個性に合わせて、スカーフや髪飾り、化粧品等のおしゃれを支援し、希望があれば馴染みの美容室にお連れしている。又、行きつけの美容室にご家族と一緒にいける方もいる。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の時間が楽しめるように皆で一緒に作ることを大切にしている。スタッフも一緒に食事をする中で、食欲や表情を見ながらも楽しい食事を心がけている。入居者に食べたいメニューを伺ったり、旬の食材を取り入れる等の工夫をしている。お酒がお好きな方には提供している。	利用者は出来ることを活かしながら、職員と食材の買い物に行ったり、下ごしらえや盛りつけ、後片付けなどを行っている。職員は声かけや見守り、必要に応じて介助をしている。外食したり、畑で採れた野菜が食卓に彩りを添えたりすることもあり、食事が楽しみになるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに応じて量を加減したり、状態や好みに合わせて刻んだり柔らかくしている。食事・水分摂取量が少ない方は個別にチェックし、把握しやすいようにしており、補食も行っている。毎日、水分補給として朝とおやつ時にイオンサポートゼリーを提供している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その方に応じた声かけにて歯磨き・義歯洗浄・消毒のケアを行っている。必要に応じて毎週、訪問歯科にブラッシングをお願いしている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者一人ひとりの排泄パターンを把握しトイレでの排泄の支援をしている。トイレの際は入居者の気持ちを尊重し、さりげない声かけをし、本人が気持ちよく排泄できるよう支援している。またカテーテルを装着している方に対しても羞恥心に気を配りながら支援している。	排泄パターンを把握し、夜間を含めトイレでの排泄を基本としている。周りの人に気付かれないようにさりげなくトイレへ誘導したり、紙パンツや布パンツ、パット類などは時間帯にも配慮しながら本人に合わせものも使用したりしている。多くの利用者が、紙パンツとパット併用から布パンツとパット併用になり、排泄の自立にむけた支援に取り組んでいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防や改善のため寒天入りのゼリーを一日に二回提供している。又、食物繊維の多い食材をメニューやおやつに取り入れ、水分補給と共にラジオ体操や散歩などの運動も取り入れている。なるべく薬に頼らないように個人に合わせてヨーグルトや牛乳、ヤクルト製品を提供し排便を促すよう支援している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	いつでも好まれる時間に入浴して頂いている。又、入浴の際の声かけを個人に合わせて工夫したり、音楽をかけたりと入居者が気分良く入浴して頂けるようにしている。夕食後にお一人でお入浴される方もおられ、こまめに見守りを行っている。	早朝から夜間まで利用者の希望に合わせて入浴できるように支援している。湯かげんやシャンプーなど本人の好みを尊重し、柚子湯などで季節感を楽しんでいる。入浴を拒む場合には、足浴から始めてみたり、好きな音楽をかけたたりして、一人ひとりに沿った支援をしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	これまでの習慣を大切にしたい休みたい時間に休まれる。眠れない時は薬に頼らず、温かい飲み物を提供したり日中に入浴・足浴を行ったり、冬場は湯たんぽを使用して頂き、安眠のために工夫している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方日や毎日の薬のセットの際、薬の内容を確認している。又、訪問診療の結果、薬の変更・追加があった時は、連絡ノートにも記入し、スタッフ全員が把握したうえで症状の変化などにも気にかけている。薬は、入居者全員分、保管しており、その方の状態に応じて手渡しや服薬されるまでの確認を行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	園芸・家事・生け花など入居者が力を発揮できそうな場面では、「教えてください」と声かけし、助言を頂き一緒に楽しんでいる。月一回は外食に行ったり、その日の気分や天候に合わせてドライブ・外気浴などの外出を楽しまれている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日中は玄関・勝手口等鍵をかけずに開放し、自由に外出できる環境を作っている。外出される際はスタッフが一緒に出たり後方より見守りをする等入居者の気持ちに合わせて寄りそっている。月に一度は季節の行事や外食の機会を設け普段行けないところに行くようにしている。ご家族と食事や旅行を楽しまれる方もいる。	天気の良い日には散歩したり、敷地内での外気浴を楽しんでいる。利用者の希望に沿って友人宅まで送迎したり、また、花見や外食、市報に載っているミニコンサートに出掛けるなど利用者一人ひとりが外出を楽しめるように支援している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に応じて個別でお金を所持されている。管理が困難な方は預かり金として管理しており、必要に応じていつでも使えるようにしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば自由にかけて頂き、必要なところのみお手伝いしている。携帯電話を所持されている方もおられ、好きな時にご家族に電話をされている。年賀状や暑中見舞いを書かれる方もおり、葉書の購入や投函のお手伝いもしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には毎月の新聞や写真を貼って入居者やご家族が分かるようにしている。その日の天候や入居者の過ごされる場所を考慮して採光にも気を配っている。生活音にも気を配り、音が出る物を使用する時は事前に声かけを行っている。共用空間には、季節の花々だけでなく季節に合わせた飾りも取り入れている。	利用者の集うフロアは日当たりも良く、台所から料理の匂いや、食器の音などの生活感がある。また、壁には利用者の作品を飾り、家具の配置は寛げるように工夫している。玄関やフロアには花を飾り、季節を感じるようにしている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはゆったりと座れるソファが2ヶ所あり、テレビや新聞を見て過ごされたり、気の合う方同士談話して過ごせるようになっている。ソファや食席も其々に合わせて配置している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室の備えつけはクローゼット・ベッド・エアコンのみで、入居時は馴染みの家具や調度品、写真をお持ちして頂けるようにし、場所も希望のところに配置している。仏壇を置かれている入居者の方もおられる。	居室の壁やカーテンは防災になっており、寝具や家具、仏壇などを持ち込まれている。また、壁には手作りの作品や写真を飾ったり、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地良く過ごせるように工夫している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・廊下・階段・浴室内の共用部には手摺りを設置している。必要に応じて居室内にも取り付けられている。また、手摺りの位置や高さ・ベッドの配置や高さ・家具の配置など一人一人の状態に合わせて工夫している。		